

大阪府立 中河内救命救急センター

〒578-0947
大阪府東大阪市西岩田3-4-13
<https://nmcam.jp/>
TEL:06-6785-6166 FAX:06-6785-6165



シビアな救急の現場だからこそ、RFIDで患者認証！



中河内救命救急センター様は、大阪府の東側に位置する中河内医療圏にある唯一の救命救急センターです。主に現場からの救急搬送と医療機関からの紹介による傷病者に対応し、命にかかわる重度外傷、敗血症、脳卒中、多臓器不全、中毒、熱傷などの重症傷病者を専門的に治療する医療施設となっています。

時間との戦いとも言える緊急度の高い現場で、ミスなく迅速な医療行為を行うため、院内では患者、医療従事者、投与する輸血や輸液の3つを紐づける「三点認証」を徹底されています。従来、バーコードで行われていたこの「三点認証」に、この度、患者認証用RFIDリストバンド「E-プレス®」を導入し、AsReaderで読み取ることで、よりスピーディで確実な医療につなげていらっしゃいます。

導入機種 2023年8月導入

ASR-0230D



インタビュー
動画はこちら



(※)「E-プレス®」はホクコーメディックス(株)の特許製品および商標登録です。

課題と背景

かねてより、バーコードの印刷されたリストバンドで患者の個人認証を行ってきたが、出血による汚損やオイフを上から掛けることでバーコードを容易に目視できない事があり、改善方法を模索していた。

AsReaderソリューション

輸液や輸血はバーコード、看護師の個人IDはFeliCa、そして患者のリストバンドはRFIDで読み取るシステムを作るため、FeliCa対応のiPhoneに装着して、バーコード、RFIDの両方が読めるAsReader DOCK-Type Comboが採用された。

効果

三点認証を徹底することで、人為的なミスがなくなり、インシデントの発生を防いでいる。また、システムで安全チェックしていることで、看護師の心理的な負担軽減にもつながっている。

現場の声

「患者さんが寝るところに布団までめくって起こしたりとかせずに、布団の上からリストバンドをピッと読めるので、そこは便利だと思います。」(看護師様)

「バーコードを探さなくても、タッチでいけるのはすごく利便性が高くて、救命センターなので、時間との勝負って大きいので、輸血の際に早く確認したい時にかなりメリットが高いと感じています。」(看護師様)

「RFIDを読めるのはもう絶対条件で、もうひとつ職員認証として、FeliCa機能が使えるというところが選定条件だったんですが、両方使えるリーダーがなかなか無い。やっとたどり着いたのがAsReaderでした」(臨床検査技師様)



この導入事例は、2024年5月現在の情報に基づいています。



株式会社 アスタリスク

大阪本社
東京事業所
研究所兼大阪事業所
名古屋営業所

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-6-16 新大阪大日ビル 201 Tel: 050-5536-1185
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7 水天宮HSビル 2F Tel: 050-5830-5393
〒532-0013 大阪市淀川区木川西2-2-1 AsTech Osaka Building Tel: 050-5536-8731
〒460-0003 名古屋市中区錦1-5-11 名古屋伊藤忠ビル 6F Tel: 050-5536-8731